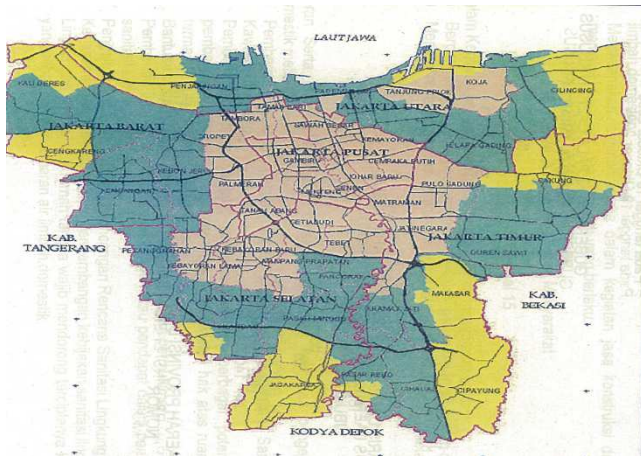


実施機関・協力機関

(株)クボタ、クボタ浄化槽システム(株)

PD PALJAYA (ジャカルタ下水道公社) 他

実施場所 **インドネシアジャカルタ特別州**



事業背景

- ジャカルタ特別州内の下水処理場は現時点では **1箇所(4万m³/day)のみ**であり、対象人口は20万人分(接続率2%)に留まっている。
- コミュニティ向けに“現地型オンサイト処理施設”が近年普及しているが、嫌気のみでの処理で放流水質が悪い。又、広い設置面積を要し都市に不向き。
- 各家庭は“腐敗槽(セプティックタンク)”が設置されているが、大半が嫌気処理のみ。汚泥引抜きもしないため **放流水質は非常に悪く、地下水の汚染源**。
- 商業地、住居地の膨張のため大規模下水処理場の用地の確保が困難。

解決すべき課題

- 未処理家庭排水の垂れ流し、セプティックタンクからの汚濁排水の影響で地下水、河川の水質が悪化。(表流水の汚染で井戸水の約40%が糞便で汚染。水系感染症が多い。)
 - **急激な都市化、交通渋滞等により下水管の敷設が困難**。
(下水整備のマスタープラン(90年代策定)が実行できていない。)
- ⇒放流水質を改善するオンサイト機器による下記汚染対策への早急な対応を提案する。

事業の概要

- 日本式浄化槽を戸建住宅やアパートに設置し、汚泥の発生状況、流入量、水質等をモニタリング調査する。(実証実験)
 - ・小型浄化槽(H23~24年度実施済)、大型浄化槽(H24~25年度実施中)
- インドネシアに適した浄化槽の準備と維持管理技術の指導を通して普及を図る。

導入する技術の概要

①小型合併浄化槽



②大型浄化槽



	流入水質	放流水質	除去率(%)
BOD	200 mg/L	20mg/L ≥	90% ≤
窒素	45 mg/L	10mg/L ≥	77% ≤

これまでに得られた成果

- 市場調査及び小型、大型浄化槽の実証試験を通じて、インドネシアに適した仕様の浄化槽開発に目途がつき、拡大するSTP市場(商業施設、病院、ホテル、アパートなど)に浄化槽が適用できることがわかった。

事業化にあたっての課題と展望

- インドネシアに適した仕様の浄化槽の開発と現地生産によるコストダウン。
- 排水規制運用の厳格化、認証制度、補助金制度などの普及のための仕組み作り。
- 実証試験を皮切りに、事業開始後3年で**採算確保**。
- ジャカルタをモデルとしてインドネシア全土は元より、同様の問題を抱える**アジア各国にも分散処理機器の普及**を図る。